



発行所
日本聖公会 東北教区
仙台市青葉区国分町2-13-15
TEL 022-223-2349
FAX 022-223-2387
URL <https://nssk-tohoku.com/>

シリーズ「東北の信徒への手紙」
「信じる」ということ

司祭 ヨハネ 八木 正言



去る2006年4月6日、米国の科学教育団体「ナショナルジオグラフィック協会」が、1700年前の幻の福音書と呼ばれる「ユダの福音書」の写本を解読したと発表しました。これは2世紀に異端の禁書とされた写本で、3〜4世紀に書かれたといわれ、1970年代にエジプトで発見、現在はスイスの古美術財団で管理されているものです。

この解読によると、イエスの十字架の出来事の前にあったとされるイスカリオテのユダの裏切り、すなわち彼がイエスをローマの官憲に引き渡したのは、実は裏切りではなく、イエスの言いつけに従った結果であると記されています。イエスは、他の弟子とは違い、唯一、教えを正しく理解していたとユダを褒め、「お前は、私の私を包むこの肉体を犠牲とし、すべての弟子たちを超える存在になる」と、自らを官憲に引き渡すよう指示したというのです。

これが史実なら、聖書の記述を覆す歴史的な大発見といえそうですが、イエスが捕らえられたのはユダの裏切り行為なのか、あるいはイエスの指示なのかによって、私たちの神への信仰は変わってしまうのでしょうか。

1998年、エルサレムに行く機会を得ました。エジプトからカナンへ、そしてガリラヤからエルサレムへという聖書の歴史に触れる旅です。その途中、エジプトの考古学博物館を訪問しました。そこには出エジプトの際のエジプト王ファラオの像があり、出エジプトの出来事についての彼の言葉が綴られています。それは「奴隷状態にあった民の数が増え、これ以上放置しておくとは暴動を起さねないから、彼らをエジプトから追放した」という主旨でした。

出エジプトの出来事は神とその使者モーセの導きによるのだという聖書の記述と、考古学博物館にあるファラオについての記述、どちらが「正しい」のでしょうか。

同じ聖地旅行でエルサレムにあるイエスの墓も訪ねました。一般には、現在、ローマ・カトリック教会や正教会が管理する、旧市街区の聖墳墓教会がそれだといわれています。しかし実はもう一つ、英国教会が管理し、プロテスタント諸教会がイエスの墓だと主張している「園の墓」があります。今後、どちらが「本当の」イエスの墓であるかが解明されたとして、その結果によって、私たちの信仰は揺らいでしまうのでしょうか。

信じようとする対象に、信じるに値する保証、根拠があるかどうかを見定めてから信じるのは、どこまでもその行為の中心に「私」があるとき。対して、たとえ保証や根拠がなくても、さらに言えば可能性が限りなくゼロに近くても、信じるという行為そのものに希望を見出すことが、「信じる」ということの内実だと思ふのですが如何でしょうか。

ユダの行為が裏切りでなかったにせよ、出エジプトの出来事が聖書通りでなかったにせよ、イエスの墓がどこであるにせよ、死さえもがあなたにとっての致命傷ではないのだというご復活の主の声に希望を見出し、信じる者でありたい、そう思います。

(仙台基督教会牧師)

洗礼式、葬送式 そして堅信式へ

盛岡聖公会
テレサ 相澤 雅子

今迄に大きな病気もせず、健康だとばかり思っていた夫が、ステージ4の肺癌と宣告されたのは、昨年10月でした。お医者様の説明では、手術や放射線治療ではなく、痛みを抑える方法で、とのことでした。目の前が真っ暗になり途方に暮れました。そんな中でも夫は焦りや慌てる様子もなく、静かに過ごしておりました。私は夫に付き添って教会の日曜礼拝に参加させていたいただきましたが、信者のみな様が夫の病気回復を祈ってくださっているのを知り、心から感謝し、私も一緒に祈りたいと思い入信することを決意しました。越山司祭にお話しして、教父母を赤坂徹・康子御夫妻にお願いして、4月9日イースターの日に洗礼を受けました。その日は夫の体調も良く、教会のみな様の祝福を受け、一人ひとりに「ありがとう、よろしくお願いまし

す。」と握手をしていました。今でも夢の中の出来事のように思い出されます。その僅か、5日後に夫は、天国に旅立っていきました。

そして、葬送式、夫が希望していた通り、教会のみな様の祈りの中で行われました。安心して神様のお側に行けたと思っております。

5月14日は新しく主教となられた、長谷川清純主教様が盛岡聖公会においてになるというので堅信式を受けさせていただきました。その日は夫の逝去一カ月の記念の日でもありました。この一カ月、目まぐるしく過ぎ去りましたが、これから少しずつ学んでゆきたいと思っております。



東日本大震災被災者 支援プロジェクト報告

●5月末で、お買い物支援が参加者の皆さんの平安を祈りつつ終了した。窓口を引き受けていただいた方より丁寧な御礼の連絡をいただいた。

●5月9日に今期2回目の会議を行い、3月11日に行った12周年の祈りと講演会の振り返りと、来年13周年も祈りと講演会を実施することを決めた。

●メンバーに「原発のない世界を求める週間」プログラムへの参加を求めた。

●プロジェクトのリーフレットの情報が古くなりつつあるので更新する。あわせて被災地巡りツアー・モデルコースの練り直しを行う。

●6月24日はメンバーによる閑上方面の視察研修を実施する。

●「水曜喫茶」で参加者との懇談にご協力頂ける方を募集(どなたでも参加できます。ご連絡ください)。

(リーダー 浅原 和裕)

東北教区青年キャンプ開催 8月11・12日(於盛岡)

2019年を最後に休止が続いていた教区青年キャンプを、今年は8月11・12日(金・土)の1泊2日にて、盛岡の聖パウロ幼稚園を会場に開催することを決定いたしました。

新型コロナウイルス感染症の影響は、決して楽観視出来るものではありませんが、十分な対策をしつつ、教区内の教会・幼稚園に繋がる青年たちが、まずは楽しく出会ってくれればと考えております。

プログラムとしても、まずは主の下に集う青年たちが、気兼ねなくコミュニケーションを取り合い、自分自身のことや、自身が所属する幼稚園や教会・教区の未来の展望について語り合うことが出来る「経験の場」を提供することを考えておりますので、沢山の仲間たちが参加してくれればと思います。

また私たちのイエス・キリストの宣教、その未来を担う、青年たちのために、心をつ

に祈りを献げてくださればと思います。

(青年グループリーダー)

司祭 渡部 拓

日本聖公会2023年 全国青年大会in東京開催

実に7年ぶりとなる全国青年大会が、8月31日(木)～9月3日(日)、東京を会場に開催されるとの一報が届きました。

「わたしたちは、だれと一緒に、食卓を囲み、どのように歩むのか」ということを主題に、西原廉太主教(中部教区)から「聖公会ってどんな教会？」というテーマでお話を聞いたり、バイブルシェアリングを通して聖書を味わったりするプログラムが用意されています。

教区の外の世界、そしてそこにいる仲間たちと出会う貴重なチャンスであると思えます。参加のためのバックアップも充実しておりますので、是非多くの青年に参加してもらいたいと思います。

(教育主事 司祭 渡部 拓)



主教として主のご栄光のために務めて参りたいと存じます。
主教就任後一カ月余、

本当に目まぐるしい日々でした。この間に自分に与えられている任務の重さを知らされて、主教の自覚を深くした次第です。4月23日と30日は主教座聖堂で聖餐式、28日は仙台でチーム北国会議でした。

5月12日、ヨハネ斎藤政信司祭がご逝去、14日大阪教区堺聖テモテ教会管理牧師内田望司祭司式で通夜の祈り、15日午後、私は葬送式司式説教をいたしました。私が行かれないかもしれない万々に備えて吉田雅人主教にご連絡していただきましたので駆けつけられて祈りを共にしてくださいました。内田司祭が葬儀一切を司ってくださり助かりました。彼は、ご自分のキャソックと白のストールまで提供され、政信司祭に着せてくれました。まったく感謝でした。
14日は私にとって初めての

堅信式でした。盛岡聖公会でテレサ相澤雅子さんの堅信式を無事挙行できて、感激されている姉妹を見ては、そのお恵みに感動しました。その朝息を引き取られた管理教会信徒のマーガレット秋田眞智子さんは、小聖堂に安置されて信徒奉事者が逝去直後の祈りを唱え、夕刻に私が納棺の式をささげました。16日通夜の祈り、17日葬送式を営みました。ここしかないタイムミングで火葬が取れたのは奇跡でした。

18日は札幌で北海道教区春季教役者会に招かれ東北教区を紹介、親睦して、20日の北海道教区宣教149周年記念礼拝で説教でした。

管理教会で逝去記念の式(21日)、埋骨(22日と27日)、24日チーム北国会議があり2週連続で札幌でした。28日、弘前昇天教会でドミニコ李贊熙司祭の牧師任命式をいたしました。同日青森のマタイ木村俊昭さんが天に召され、ご遺体を一晚聖堂に預かり、翌日祈りのうちに弘前大学大学院医療研究室に献体されました。
(教区主教)

常置委員会報告
(第8回・5月26日)

報告事項▼主教動静と今後の予定について報告。東北教区における主日礼拝ならびに教区宣教活動のための指針No.11と主教通達No.1を5月9日付で各教役者に配信したことを報告。

常置委員長報告▼東北教区・北海道教区宣教協働における両教区の課題および教勢や財政、組織、年間予定の資料を共有し、意見交換を実施したことを報告。鶴岡聖公会・新庄聖マルコ教会跡地整理に関する進捗状況を報告、主事会議について報告。

協議事項▼新型コロナウイルス感染症対策について…当面は各地域の教会が、現状を反映させていくことを注視しつつ、常置委員会毎に状況を確認、対応を協議することとする。

▼東京教区青年会小笠原プロジェクト2023への参加呼びかけと援助について…教区主教が各教役者へ伝達、各教会に呼びかけを行う方針を承認。▼十和田湖畔ヴァイアル山荘「災害対策・施設改善」の要望について…これを承認。

「十和田湖畔ヴァイアルクラブ」加入メンバー募集!

ヴァイアル山荘は、私たちに与えられている神の特別な恵みであると覚え、その祝福を絶やすことなく後世に維持・継続することは、私たちの果たすべき務めであると思います。その目的を達成していくために、「十和田湖畔ヴァイアルクラブ」を設立し、メンバーを募集いたします。ご協力ご支援を何卒お願いいたします。
十和田湖畔施設活用グループ 一同



申込書はこちらもしくは教会等に配布している用紙をご覧ください

ぜひご加入しご利用ください!

年会費：個人メンバー… 2,000円
団体メンバー…20,000円

特典：個人…日帰り or 宿泊いずれかを無料
団体…団体メンバーが主催する集まりに参加する場合、日帰り利用無料
もしくは宿泊利用半額
(個人・団体どちらも年1回上限1泊2日)





八戸聖ルカ教会

街中、何処のお庭も花で溢れ、礼拝に捧げた花に顔を寄せては花談義が始まります。少し前には見られなかった情景です。

さて、この春八戸聖ルカ教会からは遠藤司祭が異動され、他教会と連携し、月に二度の聖餐式とみ言葉の礼拝で祈りを深めています。今は日曜学校と合同の野外礼拝を企画中です。場所は十和田湖畔ヴァイアル山荘です。自然豊かな十和田で新たな自分と出会えるのか、ワクワクしますね。

青森聖アンデレ教会

2023年4月22日、主教座聖堂仙台基督教会において、日本聖公会東北教区第9代教区主教に長谷川清純司祭が按手されました。参加人数の制限により教会からは2名が参加し、祝福することができました。

常に信徒に寄り添い礼拝や説教をされる姿は神様の愛とみ言葉を伝える聖職者として相応しい方だと、異口同音に話しています。たくさんの重責を背負われることになる主教様にこれからもご栄光が与えられますよう、信徒一同祈ります。

釜石神愛教会

ご逝去から1年の6月3日(土)、故クララ高橋トキ姉の埋骨式が、越山司祭様の司式で行われました。トキさんの娘とご親戚の方々、司祭様ご家族、北海道から越山泉さんと下澤依子さんも来てくださいました。とても天気の良い暑い日で、トキさんの笑顔を思い出しながら涙を流したり笑ったり。とても賑やかに、9月で逝去7年になるご主人故マルコ高橋章介兄が待つお墓に埋骨されました。主の平安。

大館聖パウロ教会

マリヤ前澤綾子さん87歳の生涯を終え、天に召されました。後日二人のお子さんが礼拝に出られ、病室でのお母様

の日記のことに触れられ、苦しみの中で精いっぱい生きた日々を伺い、胸が痛みました。聖霊降臨日に東京聖マーガレット教会より、赤い炎に白い鳩を表現した手作りワッペンが贈られ、皆胸につけて渡部拓司祭の聖餐に与りました。聖霊を信じてまいりましょう！と力づけて頂き、交流のお恵みと祝福の一日でした。

仙台聖フランシス教会

風が新緑の葉を吹き抜けて心地良い仙台です。「仙台青葉まつり」も4年振りに開催され、全国都市緑化フェアも賑わっています。

4月に李司祭が弘前へ異動し、心細いことこの上ありませんが、八木司祭、加藤主教による聖餐式と「み言葉の礼拝」で日曜日の礼拝を守っています。牧師館の草木たちは元気で、訪れる人を待っています。どうぞおいでください。

米沢聖ヨハネ教会

教会の敷地に、雪解けを待っていたフキノトウが一斉に芽を出し、春一番の味を楽しませてくれます。フキノト

ウが終わると今度はフキが成長し、信徒の鈴木実さんご夫妻が煮物にしてください、礼拝後のお茶会の席でご馳走になっています。4月からおいでになられた遠藤洋介司祭も「これは最高に美味しい！」と絶賛。これを塩漬けにされ、再び冬にいただいています。教会のフキに感謝。

若松諸聖徒教会

礼拝堂のない時間が長く続いています。今は幼稚園のホールをお借りし、管理牧師である郡山の林司祭、福島郡の涌井司祭の協働により聖餐式を守れることに大変感謝しています。教会建築に向けて歩み、立ち止まり悩んできた我が教会は、今少しづつ動き出そうとしています。信徒も減り、一人ひとりの手は小さくとも光差す方へと神様のお導きがありますよう願ってやみません。

永遠の平安

マーガレット 秋田 眞智子
(5月14日・青森)
マタイ 木村 俊昭
(5月28日・青森)

7月逝去者記念聖餐式
7月5日(水) 午前10時
於 主教座聖堂
司式説教 長谷川清純 主教

- 司祭 松島 篤 1943年7月5日逝去
- 司祭 ペテロ片岡常吉 1973年7月11日逝去
- 司祭 ヨハネ野村 義雄 1962年7月14日逝去
- 司祭 William F. Madeley 1939年7月22日逝去
- 司祭 ペテロ 佐藤公平 1981年7月26日逝去
- 司祭 James Hubbard Lloyd 1951年7月27日逝去
- 執事 ペテロ 林 国男 2010年7月30日逝去

7月9日(日)は「海の主日」です。すべての船員の安全と福祉のため、またそれを支える団体・人々のため、祈り、献金をお献げください。

